

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 129 号

2024年 7月



第 193 回観察会 斜平山・スプリングエフェメラル観察会

高山の原生林を守る会第 193 回自然観察会を斜平山で実施しました。参加者は 18 名でした。

大森山森林公園の駐車場から出発してしばらくは曇り空でしたが、中の道に着く頃には陽射しが差し込み、その後、時間とともに青空が広がり、穏やかな日差しの中の花観察となりました。

今年の花暦は駆け足、先週、中の道までの林道沿いで咲き揃っていたタムシバは殆どが花を落とし、イワナシの花も終盤。代わりにマキノスミレなどのスミレが可憐な姿を見せていました。

中の道では、愛宕山から笹野山に至る尾根からの緩斜面を登るようにカタクリが咲き揃う中、オトメエンゴサク、スミレサイシンが様々な色合いで咲き揃い、まさにスプリングエフェメラル・花の共演。稜線や急斜面ではイタヤカエデの黄色い花が陽ざしを受けて煌めいていました。

参加者は思い思いに花を観察、ため息や歓声の連続、帰るのがもったいないくらいでした。下りの林道でもこの山域に多いイワフネタツボスミレが点々と、久しぶりのキツネヤナギも、あちこちで観察を楽しみながら大森山森林公園に戻りました。



大森山森林公園



タムシバを観察



マキノスミレが群生

第 193 回なでら山のスプリングエフェメラル観察会

山岸秀章

2024 年 4 月 21 日実施の自然観察会を山岸 (FTV カルチャー登山教室在籍) がレポートします。

斜平山は、標高 500~620m の山々が南北に連なる、米沢市近郊の里山です。北から御成山、羽山、愛宕山、笹野山、栴窪山の山々が連なる山塊で、語源は「雪崩が起きる山」です。笹野山の東側は屏風のように斜面がそそり立ち、大きな木が定着せず、冬は白い屏風になります。春近くにはそこが「なでこけ」で絶壁になります。

今回歩いたのは笹野山の東側の山すそ、大森山森林公園を起点に一周 5km のルートです。崖積土による広い緩斜面が形成されており、春の花を愛でるのに絶好のお花畑となっています。

(メモ)冬に笹野山の山頂を参加希望者 100 人以上の集団で歩く“カンカン歩き”と言う催し物も有名です。

＊＊ ユキツバキ 吾妻連峰を境に福島市でみられない植物たち ＊＊

歩き始めると、わらびを栽培している、おじさんの話に引き込まれつつ、春の花の洪水状態に歓声が上がります。本日のポイントの一つ、ユキツバキに遭遇。佐藤さんの解説が入ります。

福島市では、ヤブツバキ、吾妻連峰を境に米沢ではユキツバキ。当地は雪が深い環境に適応した種が生息。福島市のヤブツバキは一本立ちに成長するが、当地のユキツバキは雪に圧迫されても圧力を受け流すような形状で成長する。花糸(かし)の色で識別。ヤブツバキは白、ユキツバキは黄色。

キバナイカリソウ、オクチョウジザクラ、も福島市では見られない。等々。聞くだけで楽しい。

＊＊ カタクリ 大群生地 ＊＊

笹野山の東側の山すその広い緩斜面がカタクリの大群生地となっています。これだけ広い群生地は初めて見ました。キクザキイチゲ、アズマイチゲ、オトメエンゴサクも群生してました。夏にはトリカブトで一杯になるんだよとの声も。スプリングエフェメラル観察会としては大成功。来年も来たい場所として記憶しました。

＊＊ 多種類のスマレ類 ＊＊

オオタチツボスマレ、タチツボスマレ、ナガハシスマレ、ムラカミタチツボスマレ、イワタフネタチツボスマレ・・・

佐藤さんの解説とセットで、お花愛好家には魅惑的な機会となったことでしょう。私にはちょっと難しい。

植物観察に加えお昼には、たけのご飯、甘酒、キュウリ、卵焼き、コーヒーにお菓子各種と会員の皆様に接待頂き、大変おいしく頂きました。御馳走様でした。

ずっと昔、ふくしまブナ巡礼を読んだ事を思い出しました。読書から 2~30 年、奥田様と高山の原生林を守る会の皆様にお会いでき、いろんな展開があるなーと感心。またどこかでお会いしましょう。



中の道にて



ハルニレの大木の下で昼食



カタクリ



スマレサイシ



オトメエンゴサク



四季の里駐車場にサトザクラ

西大巔・西吾妻登山道保全作業報告



作業を終え、西大巔山頂にて

していただきました。

斜面崩壊地帯は昨年初めて根巻きロールを設置しましたが、早くもチングルマなどの芽生えが確認されるなど、うれしい効果も認められました。

崩壊地帯は数百 m にわたり、まだまだ、一部です。今回は植生回復の兆しが見られ、崩壊の規模も比較的大きい箇所を重点的に行いました。

参加して頂いた皆さんの協力お陰で当初予想していた以上の保全作業ができました。参加して頂いた皆様ありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

6月11日(火)に西大巔山頂から西吾妻に向かう樹林帯までのロープ設置と崩壊斜面の植生保全作業を実施しました。

参加者は高山の原生林を守る会のボランティア募集に応募して頂いた登山者、裏磐梯自然保護官事務所職員、中里浩アドバイザー、山形県、エングランデリゾート職員、高山の原生林を守る会併せて19名でした。

今回は主としてロープ設置作業を行うグループと斜面崩壊地の植生保全作業を行うグループに分かれて実施しました。ロープ設置作業グループは昼食後斜面崩壊地の植生保全作業に合流



ネットと石を活用して土留



作業を終え、天狗岩にて

例年ですと残雪豊かな大回ですが、今年はわずかに残るのみ。そのため融雪後に咲くヒナスミレはじめ多くの花々が咲き揃い、花の誘惑と闘いながら作業地点に向かいました。

A 班は健脚揃いだったこともあり、作業が早く、B 班が若女平湿原での作業を終えるまでに午後に予定していた西吾妻小屋南西部湿原のロープ設置も昼食予定時間までに終えてくれました。

1 番目の南西湿原の木道で昼食を済ませ、2 番目の湿原下で植生保全作業を行いました。そこは、近自然工法による登山道整備を最初に実施した場所で 3 年が経過し、うまくいかなかった処理も確認できました。今回は、これまで保全作業を行った箇所でも未完成の施工や補強の堤の設置作業を行いました。

皆さん作業に熱中するあまり、帰りの時間を超過する所でした。リフト最終時刻が 3 時 40 分で来るときに出会った花々を鑑賞する時間も欲しいので余裕を残して作業を切り上げました。

6月15日(土)に天元台から西吾妻小屋南西湿原までの登山道保全作業を実施しました。

参加者は高山の原生林を守る会のボランティア募集に応募して頂いた登山者、裏磐梯自然保護官事務所職員、ネイチャーフロント米沢、高山の原生林を守る会併せて 15 名でした。

心配された天候はこれ以上ない日差しに恵まれ、時折、涼感あふれる風が吹いて最高の条件でした。

作業箇所が 4 か所に分散するため、西吾妻山頂を経由する A 班と若女平分岐に直行する B 班の二班に分かれて作業箇所に向かいました。



全員で共同作業



石積み作業

ブラジル紀行 2

佐藤 守

3 チエテ川源流の森

2023年12月17日(日)にチエテ川源流州立公園のナシエンテ遊歩道(Trilha da Nascente)をハイキングしてきました。

チエテ川は、海からわずか 22 キロのセラ・ド・マールを水源として、サンパウロ州の 62 市町村を経てイタプラでパラナ川に注いでいます。1,100 キロにわたって内陸を流れており、水路として活用されてきたブラジル開拓史上、重要な川です。

16 世紀初頭、ポルトガル人の大陸内陸部への最初の侵入ルートとなり、後背地を探検した冒険家たちが川岸に集落を築きました。

チエテ川源流は、1954 年にサンパウロ市制 4 周年を記念してブラジル地理学会が行った探検で発見されました。

源流発見当初、一帯は私有地で、木炭を作るための薪として木が伐採され、その後、家畜の放牧に使われた結果、荒廃してしまいました。

その後、サンパウロ州の文化遺産を保護、評価、普及することを目的とする機関である CONDEPHAAT によって 1990 年 2 月 21 日に保護地域に登録され、州立公園として保護されてきました。その結果、マタ・アトランチカの 2 次林が再生されてきています。

マタ・アトランチカに抱かれたこの公園は、オセロット、アルマジロ、ヘビ、シカなどの動物や 70 種以上の鳥類が生息しています。敷地面積は 134 万平方メートルで、川の水を水源から直接飲むことができます。

遊歩道入り口には博物館があり、チエテ川流域の町などが紹介されています。水源までは州職員のガイドが案内してくれます。水源からは周回コースが整備されています。再生林ではかつて植林されたユーカリや中国から入ったタケなども混生していますがパラナマツなど貴重なマタ・アトランチカの樹木や植物が繁茂していました。

4 プライーニャブランカトレイル

ブラジル南東部大西洋沿岸には 1500km に及ぶ山脈が横たわっています。これがセーハ・ド・マール (Serra do Mar)、海岸山脈です。海岸山脈には標高 500~1500 m の急峻な山々が連なっています。

モジ・ダス・クルーゼス市から海岸山脈を越えてリゾート地ベルチオガに向かいます。そこからフェリー 15 分ほどでサンタアマロ島着。プライーニャブランカトレイルは島のフェリー港から峠を越えて北東岬にあるプライーニャブランカ海岸に至る小径です。

島のプライアプレタフェリー港を降りると正面の斜面に門構え。プライーニャブランカ海岸への山越えトレイルの入口です。トレイルは 2 km あまり、標高差 50m 程度です。登山道は石畳等で整備されており、マタ・アトランチカの亜熱帯自然林の深い緑に囲まれています。静かで、深淵な雰囲気の中、心地良い散策が堪能できます。途中に岩穴があります。ブラジルでは岩穴を覗いたものには魔物が取り付くとのいわれがあり、これを信じる住民から襲われる恐れがあるとのこと。岩穴を安易に覗くのは避けた方が無難です。確かに、登山者は皆、その岩場には近づくことなく素通りしていました。

素晴らしい森と海に囲まれたプライーニャブランカには、何世紀にもわたってこの地域に住んでいるカイサーラの集落があり、居住環境も含めて保護されています。ここでは海岸直通の車道はありません。これが森や海の自然を守るのに役立っています。(次回に続く)



チエテ川源流の熱帯雨林



チエテ川の流は岩の隙間から



ピンダウバ(Guatteria australis)
ブラジル原産



サンタアマロ島



プライーニャブランカトレイル

吾妻・安達太良花紀行 97

佐藤 守

ヤグルマソウ (*Rodgersia podophylla* ユキノシタ科ヤグルマソウ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林から亜高山針葉樹林帯の湿り気のある林縁や沢沿いに植生する大型の多年草。和名の由来は、掌状葉の姿が鯉のぼりの頂部に飾る矢車に似ていることから。根茎と種子で繁殖し、沢沿いの傾斜地などで大群落を形成する。吾妻・安達太良山系では夏の訪れを告げる代表的な植物。

葉は互生。根生葉と茎葉がある。根生葉は葉柄が長く掌状5出複葉、茎葉は互生して茎に付き掌状3または5出複葉である。小葉は倒卵形、葉縁は大型の鋸歯があり、鋸歯は三角形。葉裏の葉脈に微毛が着生する。また、葉柄上部には長い毛がある。根生葉と茎葉が折り重なって葉群を構成している。

花は頂性。葉群から伸びた茎の先端に大型の円錐花序を形成する。花弁はなく、花弁に見えるのは萼裂片で5裂する。がく裂片は緑白色から白色に変わる。がく裂片の先が赤き着色する場合がある。雄蕊は10個であり、直立し、がく片より長い。葯の色は淡白黄色、花糸は透明感のある白である。花柱は2個あり、花時に直立する。花柱と柱頭は白い。



ヤグルマソウはブナ林帯の溪谷林に植生する代表種で、沢沿いの登山道を歩いていると、必ず群落に出会う。大きな葉群からこれでもかと伸びた白い花序の姿は夏の風物詩、打ち上げ花火のようでもあり、祭りの竿灯のようでもある。竿灯は稲の穂を模したもので、稲穂は垂れるもの。こちらは清々しいほど上に伸びている。ブナ林の打ち上げ花火と言ったところだろうか。



ヤシャビシヤク (*Ribes ambiguum* ユキノシタ科スグリ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林に植生する落葉広葉樹。ブナやミズナラなどの落葉樹の落葉やコケなどが堆積した割れ目に根を伸ばして生育する。環境省 RDB 準絶滅危惧種。着生した樹に栄養を依存する寄生ではなく、絶対着生性のスグリの仲間。着生ランの樹木版のようなものかも知れない。着生する樹木は落葉が落ち着けるほどの洞ができることが条件なのでそれなりの樹齢を経たものになる。ヤシャビシヤクの果実を食べた鳥の糞が割れ目で発芽して着床すると考えられる。その為、ヤシャビシヤクは高い所で生育していることが多い。

名前は果実が昔のヒョウタンの形に似ており、ヒョウタンの実を意味する「ひさご・瓢」から「ひしゃく」に変化したとされている。昔はヒサゴを半分に分けて水をくんでいた。夜叉しか簡単に行けない高い位置に果実があるのでヤシャビシヤクとなったとされる。

葉は互生。長枝と短枝を形成する。短枝では束生する。葉の形は掌状の腎円形で縁は鈍鋸歯がある。葉の基部は心形で扇子を広げたような姿。葉柄と葉には軟毛が密生する。確かに葉の形はスグリに似ている。

花は腋性。葉腋から淡い淡緑黄色の花を数輪咲かせる。ガク筒は先端が5裂平開し、花弁状を呈する。花弁はガク裂片の間に直立する。一見するとがく裂片が花弁のように見える。雄しべは5個、花弁の間の内側から立ち上がる。雌しべは1個である。花柱は先端になるに従って緑色が淡くなりその先に球形の柱頭が2個ついている。果実は球形で果皮には長い腺毛が密生する。果皮色は緑。果実の先端にはがく片が残る。

吾妻・安達太良連峰に自生するスグリの仲間は珍しく、私は吾妻山城のコマガタケスグリと2種しか確認していない。特に花の季節に遭遇することはなかなかない。



第194回自然観察会案内：鳥子平から高山・亜高山針葉樹林の植物観察会

日時：2024年7月21日（日）8：00～15：30

集合場所 四季の里正面入り口森駐車場

集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 鳥子平から高山山頂までの高層湿原植物とオオシラビソ林に生育する植物を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、帽子、手袋（軍手）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、ゴミ袋

* 装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：7月19日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

西吾妻登山道誘導ロープ取下げ作業(詳細は佐藤守まで)

10月19日の予定でしたが天元台ロープウェイ・リフトは10月14日終了となる為実施日を変更します。環境省主催近自然工法整備作業が10月に実施される可能性もあるのでその場合は一緒に作業を済ませることも検討したいと思います。

決まり次第、改めてご連絡します。

問い合わせ先：佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

ボランティア作業に係るロープウェイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)

郵便振替：02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

ネイチャーフロント米沢から2024年の事業計画が届きました

実施時期		予備日	実施箇所	事業内容	目標参加人数	事業量(時間、面積、粒)	備考	担当者
8月5日(月)	8月6日(火)	小凹湿原(弥兵衛平)	植生定点撮影・種子採取	3	約7時間	湯元駅8:00集合	高橋(敬)	
8月17日(土)(市民感謝の日?)	8月18日(日) 8月24日(土)	小凹湿原(弥兵衛平)	荷揚(小凹)、種子採取(弥兵衛平湿原付近まで)	20	約8時間	湯元駅7:20集合		
9月上旬		馬場谷地	長期モニタリング調査	5	約5時間	置賜森林管理署主催 同行確認	竹田	
9月上旬			種子秤量と袋詰め	5	約2時間			
9月14日(土)(市民感謝の日?)	9月29日(日)	小凹湿原	小凹での播種・マルチング	15	約7時間	湯元駅未定		
10月5日(土)		栗子	万世大路(福島側)・二つ小屋トンネルを歩く			東栗子トンネル駐車場集合、時間未定		
10月19日(土)	10月20日(日)	西吾妻山地域	登山道誘導ロープ取り外し(高山の原生林を守る会と共同作業)	4	約3時間	湯元駅7:50集合(高山の会も一緒に登山予定)	竹田	
11月		西部コミセン	定点写真による植生評価	6	約3時間			
11月9日	11月10日	西部コミセン	20周年記念講演会			時間未定		

(**注)候補地：[米沢] 田沢の大荒沢・ブナ林、福島側万世大路(二つ小屋トンネル-栗拾いできる)、早坂山、戸塚山、会津街道(綱木)、[高畠] 文殊山(亀岡文殊)、豪土峠、観音岩(二井宿)、[南陽] 岩部山、[白鷹] 白鷹山、[川西] 高戸屋山(ダリヤ公園の近く)、[飯豊] 天狗山、梅峯、[小国] 13峠(宇津峠・黒沢峠・大里峠など)

「高山」高山の原生林を守る会会報 第129号 2024年7月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP:<http://adumatakayama.justhpbs.jp/index.htm>
(URLが変わりました)

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田